

改善報告書

大学名称 三重県立看護大学 (大学評価実施年度 2019 (令和元) 年度)

1. 大学評価後の改善に向けた全般的な取り組み状況

本学における内部質保証の推進については、「公立大学法人三重県立看護大学自己点検評価委員会規程」により、自己点検・自己評価や年度計画策定と同じく、自己点検評価委員会の審議事項として位置付けられています。

また、内部質保証の審議機能充実のために、学長の補佐機関である企画運営会議が改善サイクルの実施時に必要な協議及び調整の役割を担っています。

P D C Aサイクルの恒常的・継続的プロセスについては、自己点検評価委員会が年度単位の点検評価活動という「P C A」の役割を担い、企画運営会議が各委員会の実施する改善サイクル等の協議の場として「D」の役割を担い、ともに理事長（学長）、副理事長（事務局長）、理事等から構成されていることから、自己点検評価委員会と企画運営会議により、全学の内部質保証の推進に責任を負う体制が担保されていることとなります。

2019 (令和元) 年度大学評価結果については、自己点検評価委員会及び企画運営会議でその指摘された改善課題が共有されています。

自己点検評価委員会においては、改善課題に係る取組について、令和2年度以降の年度計画に事業の進捗目標が明記されるとともに、年度終了時には当該年度の実績及び評価が提出され、審議に付されています。

その年度評価により到達点を確認し、次年度の計画に繋げていくことで、P D C Aサイクルを適切に回しています。

一方、企画運営会議においては、改善課題に係る制度構築・運用等の検討主体である研究科教学小委員会から議論の進捗、今後の検討予定等が報告されており、「D」の進捗を適切に管理しています。

大学評価受審以降は、制度構築・運用等の検討主体である研究科教学小委員会における議論、試行、検証、改善の恒常的・継続的プロセスにより課題の改善に努め、令和4年度には新たな制度の本格的な導入に至りましたが、より良い到達点を意識しつつ、引き続きP D C Aサイクルを適切に機能させていきます。

- ・資料 1-1 「公立大学法人三重県立看護大学自己点検評価委員会規程」
- ・資料 1-2 「公立大学法人三重県立看護大学企画運営会議規程」
- ・資料 1-3 「公立大学法人三重県立看護大学組織図」

2. 各提言の改善状況

(1) 是正勧告 該当なし

(2) 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学修成果
	提言（全文）	研究科では、試験、レポート及び授業中のプレゼンテーションなどを総合した成績評価をもとに学習成果を把握することとしているが、科目ごとの評価にとどまっており、必ずしも十分な把握・評価方法とはいえないため、学位授与方針に示した学習成果を把握・評価する方法や指標を定め、適切に測定するよう改善が求められる。
	大学評価時の状況	学位授与方針に基づき定められた到達目標と到達目標に即した評価基準の必要性、手法としての「ルーブリック（評価）」の有用性等は認識されていたが、大学全体での組織的な議論、取組には至っていなかった。
	大学評価後の改善状況	大学評価における指摘を踏まえ、本学の令和2年度年度計画に「ディプロマポリシーの到達度を測定する手法の検討」を位置付け、令和2年度中に取りまとめることが確認された。 具体的手法案として、大学院学修成果ルーブリック評価表案が委員会に諮られ、検討されることとなった。委員会では、有用性担保の観点から教員・学生双方から評価しやすいツールとすべき等の意見が出され、議論を重ねて評価基準を修正し、令和2年度修了生を対象にした試行実施に至った。 試行の検証では、教員と学生の評価に大きな乖離が生じなかった一方、評価項目についての継続議論が必要であること、教育効果確認のために修了時だけでなく、入学時、1年次終了時における評価も必要であること等が指摘された。 前年度の進捗・成果を踏まえ、令和3年度の年度計画に「ルーブリック評価表を活用したディプロマポリシーの到達度確認」を位置付け、令和3年度にルーブリック評価表を完成させ、運用を開始すること

		が確認された。 院生の共通のディプロマポリシーの到達度評価に加え、修士論文コース、臨地教育者コース、専門看護師コースといったコース別の評価も可能とするルーブリック評価表案が委員会に諮られた。 令和3年度の議論において、評価項目については臨地教育者コース及び専門看護師コースに特定課題論文の審査基準を用いたりサーチ・ルーブリック追加等の修正点が指摘された。 また、評価時期については、入学時の自己評価が困難なことへのフォローの必要性を認識しつつ、学生の自己評価を「入学時・各学年の年度末・修了時」とすることが決定された。 評価項目、評価時期等に係る議論、試行、検証、修正のサイクルを経て、令和3年度後期修了生から、学修成果ルーブリック評価の運用が開始され、対象12名の評価結果が共有されるに至った。 前年度の運用開始を踏まえ、令和4年度の年度計画に「ルーブリック評価の本格的運用」を位置付け、ルーブリック評価を実施するとともに、運用方法等については絶え間ない改善をしていくことが確認された。 運用面における経年的な評価結果の比較、入学時や各学年度末の評価手法等について、議論が重ねられるとともに、在学生及び主任指導教員にアンケート調査を実施した。 これまでの議論とアンケート結果の検証から、入学時においては評価ではなく、教員と院生との面談を通して修了時の到達目標を確認する方法で検討していくこと、修了時以外の時期に実施する場合の評価項目検討の必要性など運用面における検討の方向性が確認された。 議論、検証、修正のサイクルを経て、かつ企画運営会議での修正に係る意見も反映し、年度末の小委員会において、令和5年度の在学生及び新入生を対象に実施する評価表が確定された。
--	--	---

	「大学評価後の改善状況」の 根拠資料	資料 2-(2)-1-1 学修成果ルーブリック 資料 2-(2)-1-2 研究科教学小委員会 年度活 動方針及び内容 資料 2-(2)-1-3 研究科教学小委員会 議事録				
	＜大学基準協会使用欄＞					
	検討所見					
	改善状況に関する評価	5	4	3	2	1